

身につまされるサラリーマン川柳

先日、第一生命からサラリーマン川柳「100句」が発表されました。

物忘れ 増えて良くなる 夫婦仲

息子より 妻にかけたい 教育費

クラス会 あのマドンナが デラックス

はっとするものや、思わずにやにやしてしまうものなど、実に良くできた川柳の数々に感心してしまいます。

そして、これも世相を現しているということなのでしょうが、気になる川柳が目にとまりました。

何になる？ 子供の答えは 正社員

小学生 夢見る職は 「正社員」

ワーキングプアとか派遣切りということが大きな社会問題となっておりますが、加えて新規卒者の就職難も深刻で、働きたくても働く場所がないという厳しい労働環境が連日のように報道されていますから、子どもたちの心にも大きな影響を与えていることは想像に難くありません。

そうではあっても、子どもたちの夢や希望が「正社員」というのは、余りにも寂しいかなというように感じます。

正社員であるかどうかは、働き方の形態に過ぎません。大事なことは、将来自分は一体何をしたいのか、社会の中でどのような役割を果たしたいと思っているのか、ということなはずです。

大学生の就活では、需給のミスマッチということが指摘されています。つまり、大学生は、大企業への指向が強い一方、人材を求めている中小企業には人が来ない。結果、路上には就職未定者が溢れている、という状況にあります。

既に終身雇用制は崩壊しているにもかかわらず、依然として、寄らば大樹の陰の安定志向で就職先を選ぼうとしている。就職浪人したり、非正規労働者として劣悪・不安定な生活に甘んじるくらいなら、中小企業に就職してその会社を「自分の力で大きくしてやる」ぐらいの気概は持てないものだろうかと思われがちです。

将来の夢が「正社員」と考えている子どもに対して、こういう世の中だから仕方ないよなと大人の方が勝手に納得してはいけないと思います。将来の日本を託するのはそのような子どもたちだからです。

一人ひとりの子どもたちがその内に秘めている思いや力を引き出し、白いキャンバスに大きな絵を描かせる、それは教育の大きな大きな責任です。 （塾頭 吉田 洋一）